

令和3年 11月「月報」

1 はじめに

新型コロナウイルスの新規感染者数は、10月31日現在、日本全国で229人と減少を続け、国民生活も感染前の状態に少しずつですが戻りつつあります。

新型コロナウイルスの新規感染者数減少の理由としては、国民の多くにワクチン接種が進んだ（約70%接種）ことと、マスク装着、手洗いの励行などが考えられます。

また、自衛隊員へのワクチン接種率も、10月末現在1回目約94%、2回目約87%に達しました。

新型コロナウイルスの新規感染拡大が下火となった10月13日に、本会は令和3年度の定期総会等を開催しました。

その数日前の10月4日、衆参両院の本会議で総理大臣指名選挙が行われ、第100代の総理大臣に岸田文雄自民党総裁が選出され、同日岸田内閣が正式に発足しました。

10月31日、第49回衆議院議員総選挙が行われ、自公の与党が293議席と衆院の過半数を超える議席を獲得し、引き続き自公連立政権が続くこととなりました。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 岸田総理が所信表明演説で防衛大綱などの改定に言及

10月8日、岸田総理大臣は、所信表明演説において国民を守り抜く外交、安全保障として、「外交、安全保障の要諦は、『信頼』だと確信している。先人たちの努力により、世界から得た『信頼』を基礎に、三つの強い『覚悟』をもって毅然とした外交を進める」と述べました。

その覚悟として、第1に、「自由、民主主義、人権、法の支配といった普遍的価値を守り抜く覚悟」、第2に、「我が国の平和と安定を守り抜く覚悟」、第3に、「地球規模の課題に向き合い、人類に貢献し国際社会を主導する覚悟」を挙げました。

そのうちの第2の「我が国の平和と安定を守り抜く覚悟」については、『我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、我が国の領土、領海、領空、そして、国民の生命と財産を断固として守り抜くために、**国家安全保障戦略、防衛大綱、中期防衛力整備計画の改定に取組み**、この中で、海上保安能力や更なる効果的措置を含むミサイル防衛能力など防衛力の強化、経済安全保障など新しい時代の課題に、果敢に取り組んでいく』と述べました。

(2) 岸田内閣組閣人事

10月4日の岸田内閣組閣人事において、岸防衛大臣が再任されました。

3 家族会の活動

(1) 令和3年度総会・理事会等の開催

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大により、当初予定の6月から延期し、東京都の緊急事態宣言が解除された10月13日、グランドヒル市ヶ谷において、令和

3年度「定期総会」及び第4回理事会を開催するとともに、各県及び本部理事等の表彰を行いました。

総会には、全国から各県家族会会長、理事、監事をはじめ運営委員などの代表者66名が出席しました。会議等は、ソーシャルディスタンスを保ち、常にマスクを着用し、新型コロナウイルス感染防止対策に留意して行われました。

総会の冒頭、伊藤会長は、コロナ禍にあってもそれぞれに工夫を凝らしつつ会勢拡大努力、あるいは部隊への激励などを行う各県家族会の活動をねぎらうとともに、厳しさを増す安全保障環境の中、宇宙などの新領域を含む自衛隊の活動に触れ、「厳しい任務の遂行に相応しい法律が整備されているかなども含め、親族である隊員達により沿い、隊員達が働きやすいように活動していくことが、本会の定款の求めるところでもある。会として何ができるかを検討して参りたい。」と挨拶しました。

(会長挨拶要旨は、おやばと11月号1面に掲載)

なお、今年もコロナ禍のため、例年実施の式典及び意見交換会は見送りました。

ア 総会

(ア) 議案

第1号議案：平成2年度年度事業報告（案）

第2号議案：平成2年度収支計算書（案）
及び「同監査報告書」

第3号議案：辞任理事の後任選任（案）

辞任理事の後任として、次の2氏を選任する議案

- ・田浦 正人（運営委員）
- ・島村 吉曜（札幌自衛隊家族会会長）



挨拶する伊藤会長と全景

審議結果：全ての議案は全会一致で可決しました。

(イ) 報告

報告1：令和3年度事業計画

報告2：令和3年度分担金算定結果

報告3：令和3年度収支予算書

報告4：令和元年度「自衛隊の活動支援金」管理運営委員会報告

自衛隊の活動支援基金による平成2年度激励実績及び同年度末現在の支援基金の現況などを報告しました。

報告5：令和2年度「問い合わせ窓口」これまでを振り返って

昨年4月から開始した隊員及び家族（親等）からの問い合わせの件数、内容の分析、相談員の対応と結果、並びに総合所見などを報告しました。

報告6：東京オリンピック・北京オリンピック参加者等への激励報告

令和元年から２年間にわたる各県家族会からの募金の状況及び体育学校所属のオリンピック出場選手への激励、並びに東京オリンピックでの出場選手のメダル獲得の成果などを報告しました。

イ 第４回理事会

(ア) 議案第１号議案：辞任業務執行理事の後任選任(案)

辞任業務執行理事（家族支援協力担当）の後任に田浦正人会員を選任する議案

(イ) 報告

報告１：運営委員の退任

海沼敏明会員が運営委員を退任する報告

報告２：代表理事及び業務執行理事の報告

代表理事及び各業務執行理事（退任業務執行理事を除く）が、昨年１０月の理事会以降のそれぞれの業務執行状況を報告しました。

ウ 表彰

団体表彰として、新潟県及び岡山県を始め１５県自衛隊家族会を表彰しました。

また、個人表彰として退任県家族会長などの３名を表彰し、長年の労に感謝を表しました。

(ア) 団体表彰

A 総合表彰

＊最優秀賞：新潟県自衛隊家族会、岡山県自衛隊家族会

＊優秀賞：栃木県自衛隊家族会

B 活動表彰（以下〇〇県自衛隊家族会を〇〇県と省略して記載）

＊防衛講演会優秀賞：道央、岡山県

＊募集活動優秀賞：宮城県、東京都、熊本県

＊援護活動優秀賞：新潟県

＊家族支援協力優秀賞：青森県、愛知県、大阪府

＊おやばと購読優秀賞：道南、福島県、
長野県、広島県

＊北方領土返還署名活動優秀賞：栃木県

＊会勢拡大優秀賞：新潟県、福井県

＊ダイフェンスワールド購読優秀賞：栃木県



表彰記念撮影

(イ) 個人表彰

＊退任群馬県家族会会長：福田 登 様

＊退任理事、運営委員：海沼 敏明様

＊退任運営委員：前田 絹代様

(２) 南関東地域協議会の開催

９月２９日～３０日、令和３年度南関東地域協議会（高橋亨会長）が、埼玉県狭山市

の「レストラン ニックス」で開催されました。

今年は、1都6県で順次開催する2年目で、埼玉地方協力本部の協力を得て、初日に定例会議と講演会、2日目に史跡研修の日程で行いました。

会議には、コロナ感染防止の観点から県外移動が制限された茨城、山梨を除く各県の会長及び事務局長が参加し、本部からは森山地域担当委員が参加しました。

また、自衛隊からは、東部方面総監部募集課長、南関東地域の当該地方協力本部長が参加しました。

ア 定例会議では、令和2年度の事業報告、同会計収支報告・同監査報告、令和3年度事業計画(案)などを審議しました。

イ 2つのテーマでの討議成果

(ア) 本部指定テーマの『コロナ禍における家族会活動』では、「大半の計画は中止に追い込まれたが、感染防止を徹底し、新入隊者に対する家族を含めた説明会、家族支援訓練などを何とか実施できた」、「昨年度は、事態鎮静化まで活動自粛の方針であったが、今年度は感染防止対策を徹底し、臨機応変に活動を再開している」など、各県からコロナ禍での取組みが報告されました。また、「コロナ禍に対応できる会則改定や、ネット化の推進などの活動基盤の整備を進めている」「家族会のロゴ入りマスクや携帯用消毒液を作成し活用している」などの活動も紹介されました。

(イ) 『自衛隊が行う募集・援護活動に対する協力』については、各県の活動報告とともに、「援護率が100%達成でも新たな援護情報は必要なのか」など、地本への質問や要望が次々に出され、各地本長からは「退職者の多様なニーズに対応するためにも引き続き援護情報の提供をお願いしたい」など、実情を踏まえた丁寧な回答がありました。

ウ 防衛講話

埼玉地方協力本部長（山下真司1等空佐）から、スイス・ジュネーブの軍縮会議日本政府代表部での勤務を踏まえた「軍縮会議の実情と最近の極東情勢」と題する講話がありました。



参加者全員を囲んでの記念撮影

エ 史跡研修

30日は、入間基地近傍のジョンソントウン、小江戸川越の散策を楽しみました。

オ 総括

新型コロナウイルス感染拡大で、意見交換会の中止、入間基地研修の中止など当初の計画から変更を余儀なくされた地域協議会でしたが、事務局の周到な準備により充実した貴重な会議となりました。

(3) 第40次派遣海賊対処行動水上部隊への激励

10月10日、青森県自衛隊家族会（野呂和生会長）は、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処のために派遣される第40次水上部隊の護衛艦「ゆうだち」（艦長：^{わくしまひでたか}涌島英孝2等海佐、大湊基地）への慰問・激励を担任しました。

当日は、野呂青森県家族会会長と越前むつ市家族会会長が大湊基地を訪問し、大湊地方総監部管理部長（岡見雅行1等海佐）及びゆうだち艦長の涌島2等海佐へ激励品を贈呈しました。



激励品目録の贈呈

(4) 令和3年度防衛セミナー（YouTube 配信）への協賛

隊友会主催の第48回中央防衛セミナーが、10月26日、損保ジャパン本社ビル（東京都新宿）にて開催されました。

本セミナーは、コロナ禍のため聴講者を限定するとともに、講演内容を11月10日以降、YouTubeで録画配信（無料、隊友会HPから聴講可能）を予定します。会員の皆様には聴講をお奨めします。

なお、本会は、セミナーを協賛しており、伊藤会長と土谷事務局長が聴講しました。

今年は、『インド太平洋地域における安全保障環境と我が国の選択』をメインテーマ、「米国及び中国の安全保障政策」をサブテーマとして、次の2氏による講演でした。

ア ^{かわしま しん}川島 真（東京大学大学院総合文化研究科教授）

「中国の空間認識と地域政策：『一帯一路』構想と世界戦略」と題して、①習近平政権の「一帯一路」構想の狙い、②コロナの下での中国外交、③人口問題や社会補償費の増大対応及び独立自主外交の行方等の今後の中国の課題（危機感）などについて、具体的事例を挙げて講演しました。



熱弁を振るう川島講師

イ ^{むらた こうじ}村田 晃嗣（同志社大学法学部教授、元防衛省参与）

「バイデン政権下の日米関係」と題して、①バイデン政権の内政、②「新冷戦」型米中対立の見通し（短期に穏健化か長期対立か）、③QUAD（日米豪印による安保・経済等協議の枠組）やAUKUS（米英豪軍事同盟）等を進めるバイデン政権の対中国政策において、日本の果たすべき役割などについて講演しました。



熱弁を振るう村田講師

(5) 隊員家族のための防衛セミナーを開催（札幌自衛隊家族会）

10月3日、札幌自衛隊家族会東区支部（藤田恵子支部長）は、宮崎札幌地方協力本部長を講師として招聘し、「災害派遣ありがと言われる仕事」と題して、隊員家族

のための防衛セミナー（勉強会）を開催しました。

当日は、今年度入隊した隊員家族7名を含む22名が参加し、ビデオ映像を交えた講師の災害派遣の説明に、「メディアだけでは伝わらないこともよく理解でき、貴重な体験となった」などの感想が寄せられました。

